

# 全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

第 100 号記念  
(総会特集号)

平成 23 年 9 月 30 日発行

# 会 報

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会  
〒162-0051 東京都新宿区西早稲田 2 丁目 2 番 8 号  
(社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団内)  
電 話 ( 0 3 ) 5 2 7 2 - 1 2 1 0  
F A X ( 0 3 ) 5 2 7 2 - 1 2 1 3  
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

## 総会あいさつ

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会  
会 長 濱 川 浩 子  
(東京都立墨東特別支援学校 P T A 会長)



本日はこの総会の為に神奈川へおいでいただきまして、有難うございました。開催にあたりましてお陰さまで委任状も滞りなく集まりました。

今年は、3月11日の東日本大震災では地震の影響のみならず、その後の原発事故による放射能の影響など被災地ではいまだ避難所生活を余儀なくされているなど、震災後の暗いニュースが連日のように流れています。

また、未だに行方不明者4千人あまりと報道があり、被災された皆様に心よりお見舞い申しあげます。私たち保護者は、一人一人は微力かもしれませんが被災地の特別支援学校や肢体不自由の子どもたちに励ましの声を届けられないかと考えました。全肢P連では、校長会に賛同し義援金の窓口を設け、皆様からたくさん義援金を

いただきました。有難うございます。

また、今日は全国からこうして皆様がお集まりいただいたのですから、被災地の特別支援学校へ全肢P連の神奈川大会からのメッセージとして千羽鶴を作って送ろうと思います。皆様の手提げの中に折り紙が入っているそうです。これを大会期間中にひとつ、ふたつと折ってください大勢の方に折って頂けることがなよりのメッセージとなります。一日でも早く、日本中が元気になれるよう願っております、よろしくお祈りします。

最後になりましたが、本日この総会を開催するにあたり受付の準備、会場の準備等にあたられた神奈川県の保護者の皆様、教職員の皆様に御礼申しあげます。



P. 3~5 に木村元会長と濱川会長の 100 号記念ミニ対談が掲載されています。

木村知鶴元会長(左)と濱川浩子会長(右)



## 全肢P連の発展を期待して

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会  
会長 三室秀雄  
(東京都立光明特別支援学校長)

三月十一日に発生した東日本大震災では、東北地方を中心に大きな被害がありました。被災された地方の一日も早い復興を願っています。肢体不自由教育校長会では、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会(全肢P連)とともに被災地支援の活動を進めてきました。全国の会員の皆様の協力を得て九百万円近い義援金を被災地の学校に送ることができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

昭和三十三年、東京の光明養護学校(現光明特別支援学校)で全肢P連の第一回研究大会が開催されました。全国から七校の肢体不自由養護学校の代表が集まりました。当時の肢体不自由養護学校は、希望者が全員入学できる学校ではありませんでした。障害の重い子どもたちは、就学猶予や免除になっていました。その後、子どもたちと保護者の願いが原動力となり、全国に養護学校が作られました。全肢P連は、特別支援教育の推進に大きな役割を果たしてきました。昭和五十四年には、養護学校教育義務制が施行され、障害の重い子どもたちの就学が可能になり、全ての学齢期の子どもたちが学校に通うことができるようになりました。

子どもたちの教育だけでなく、学校を卒業した後、働いたり生活したりする場をつくることでも、在学中の子どもたちが地域で活躍する場をつくることでもPTAは、大きな役割を果たしてきました。平成八年、鳥取で行われた全国大会で、「機器」の分科会が設けられました。当時は、まだコンピュータや支援機器の活用は、進んでいませんでした。分科会の担当者として、大会で大きな反響を得たことを思い出します。

障害者施策の改革が進む今年度は、新しい時代への一歩を踏み出す年になりました。今年八月、「障害者基本法」の一部を改正する法律が公布・施行されました。教育については、「障害者が、その年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育が受けられるようにするため、可能な限り障害のある児童・生徒が障害のない児童・生徒と共に教育を受けられるよう配慮しつつ、教育の内容及び方法の改善及び充実を図る。」「障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによって、その相互理解を促進しなければならない。」等の内容が示されました。これまで作り上げてきた肢体不自由教育を発展させ、日本型のインクルーシブ教育システムを作り上げていくことがこれからの課題です。

また、「社会福祉士及び介護福祉法」の一部改正により、一定の研修を受けた介護福祉士やヘルパー等が「たんの吸引」と「経管栄養」ができるようになりました。医療的ケアの必要な児童・生徒が、地域でより豊かに活動できる制度ができました。この法律を生かして子どもたちの豊かな生活を作り上げることも、大切な課題です。

全肢P連は、子どもたちの通う学校づくりや教育の充実から、子どもたちの卒業後の生活の充実へと活動を広げてきました。これからの活動は、共生社会の実現に向かってすすんでいきます。全肢P連の活動がさらに充実発展することを願っています。どうぞよろしくお願いたします。

# 会報 100 号記念 ミニ対談

(出席者)

第 15 代会長(平成 16 年～17 年)

(元東京都立小平養護学校 P T A 会長 現小平特別支援学校)

木村知鶴

第 17 代会長(平成 20 年～現在)

(東京都立墨東特別支援学校 P T A 会長)

濱川浩子

司会進行 事務局長 佐竹京子

佐竹：今日は会報が 100 号になる記念として、お二方にミニ対談をお願いします、はじめに会報について何かありますでしょうか

濱川：そうですね、全肢 P 連の会報を見るようになったのは墨東特別支援学校の役員になった頃(平成 16 年頃)で、ちょうど木村さんが全肢 P 連の会長をなさっていました。

木村：私も小平養護(平成 13 年頃)に、もちろんまだ会長ではなかった頃に、佐竹さんが全肢 P 連 P 連の会長でした。全国大会でご挨拶をしているのを見て、すごいなぁと思っていました。

濱川：あれは平成 17 年の埼玉大会で、会場がとっても広い大宮ソニックだったと思います。ホテルと違って壇上が高さのあるステージなので、会場から見ていると本当にりっぱで、木村さんが何度もご挨拶なさって、すごいなぁ大変そうと思っていました。あの頃は自分が全肢 P 連の会長を引き受けるなんて思ってもいませんでしたから。

木村：私もそうですよ、平成 14 年頃の小平養護はちょうど P T A の役員選出方法が変わったばかりの頃で、各学年から代表候補が集まって執行部役員をきめるのですが、会長とか副会長は高学年の保護者がやるものと思っていました。まさか小 3 の保護者に言わないだろうと思って座ってました、だんだん役員が決まって、最後の最後に会長のなりてだけがいなくて・・・

濱川：そういう時って、流れる空気がいたたまれないですよねぇ

木村：そうなんです、みんな下向いて黙っているの、

もういいや「私やります」って思わず言ってしまいました。

佐竹：小平養護は小学部から会長を出さないと言う決まりごとがあったらしいのですが、それをなくした早々に木村さんが会長になったと聞きました。

濱川：それは、大変でしたね。

木村：はい、その後は全肢 P 連の会長までやらせていただきました。その時は子どもが小 5 でしたね。



濱川：私はその頃、墨東特別支援学校の副会長で木村さんを見るたび、やっぱり全国の会長さんはりっぱな方だと思ってました。

木村：そんなことはないです。当時は特殊教育から特別支援教育へと変わる頃で、東京の P T A 会長さんたちも勉強会を何度も開き、みんなが勉強しましょう、という雰囲気がありました。いろいろ大変な時期だったけど、どうも私はそういう変革の時に役職につくことがあるようです。

佐竹：平成 21 年に現在の会報になり、アトムファインとの合併した形になったのですが、それについてのご感想はありますか。

濱川：保護者の評判はいいですよ、会報が来るとアトムファインがついてくるので、自分で探さなくてもこういう商品があるんだって分かるし、便利だと思います。合併する前はアトムファインだけ見本誌として学校に送ってきたことがありましたよね、保護者からバックナンバーがほしいのだけど、どこに問い合わせたらいいかと聞かれました。

木村：本当にこんなこと（会報とのコラボ）が出来るんだ、すごいなと思いました。

濱川：今は合併した号が 4 回で、総会報告が 1 回、後は全国大会特集号も出しますので、年 6 回の発行ですか

木村：前は年 3 回でしたか、発送のたびに会長校の保護者に梱包作業をお願いしていましたけど、今はないのですか？

佐竹：この対談が載る総会報告集だけは、今でも東京の保護者の方に梱包作業をしてもらって宅急便で全国に発送しています。

濱川：表紙に墨東特別支援学校の卒業生が掲載されたことがあったのですが、「うちの卒業生だわ」「今、こんなことしてるのね」って分かるので保護者の間で喜んでいます、卒後のようすはなかなか知る機会がないので、さりげなく取り上げてもらうのがいいですよ、これを全国の人が読んでるんだと思うとホントに嬉しいです。

木村：そうですね、障害があっても一人暮らしをしている記事を見て、そうなんだ！って、思いました。



佐竹：今の話はアトムファインの担当者が喜びますよ、他には？

濱川：文部科学省の調査官や全国特別支援教育推進連盟の理事長の原稿が時々載るじゃないですか、全肢P連の会長になる前は、こんなえらい人が会報に原稿書くんだと思いました。全国の PTA 联合会だからなのかな、すごいなと思いました。

木村：そうそう、あいさつ文とか考える時にすごく参考になりました。

濱川：会報を読んでから全国大会の分科会などで、もう一度説明を聞いて、これ（会報）に書いてある内容はそういうことだったのかと、勉強になります。

木村：私もです。

濱川：いつの役員会でしたか忘れましたが、アトムファインと一緒に会報になって電車の中で開いていても一般紙みたいで、周りの目が気にならなくていいって、言ってた会長さんがいましたね

佐竹：いましたね、宮崎じゃないかな

濱川：できるだけたくさんの人に読んでほしいですね

木村：特別支援学級の保護者の方に読んでほしいですね普通の小・中学校の学級に行っていると、国の情報とか特別支援教育の情報って入らないのではないかしら

濱川：そうだと思います。読んでほしいですね

佐竹：イントさんに大量に印刷してもらわないと配れませんか、どうかしら

濱川：これから可能性はありますか？

佐竹：就学前の通園施設には配っているようなお話がありましたけど、どこまで配布できているのかしらね

濱川：フリーペーパーの福祉情報誌は他にもあるんですか

木村：さあ、ないと思います。見たことないですよ、アトムファインはフリーペーパーなんですか？よく駅とかに R24 とか置いてありますが、あれと同じですか

濱川：そう

木村：それじゃあ、全肢P連で配らないと手元に届かないですよ、駅に置いて福祉関係の冊子は興味ない方は読まないと思います。

佐竹：ホントに配布協力のきっかけは、そう言うことからでしたね、親御さんたちは車椅子の子どもさんを自家用車に乗せての移動が多いですから、駅で手に取るなんて機会は少ないでしょう

濱川：ないですよ、特に地方都市は車での移動は当たり前ですから

佐竹：ところで、これが創刊号です。

木村：挨拶文の出だしが「われら連合会…」ですね

濱川：時代を感じますね、昭和33年に結成して創刊は36年ですね、当時は男性会長が当たり前だったので

木村：今は女性の会長が多いですから、会報の雰囲気も違いますね、B5サイズだし、今のA4サイズになったのはいつ頃ですか

佐竹：平成8年頃からですね、40周年あたりを境に少しずつ変わってきたようです。

濱川：その頃は、まだ特別支援学校に入学前でしたから

木村：私は、50周年の時に「50年史」を作成するために古い会報も見たので、なんとなくこんな感じだったのかなと思ってました。

佐竹：50年史の編集委員長でしたから

木村：名前だけですよ、あの時は村田先生とか青柳先生とかが一生懸命やってくくださったから・・・

佐竹：いや、名前も大事です。PTAでこんな分厚い50年史を作った団体は他に無いみたいですよ  
これ(50年史)国会図書館にも送ったんです。

濱川：じゃあ国会図書館で閲覧とかできるんですね

木村：他にはどこへ送ったんですか

佐竹：関係団体、関係者、大学、そうそう東京都の図書館にも送りました。結構いろいろなところに送りました。少しでも記録として肢体不自由のことを残したかったので

濱川：50周年記念大会はお客さん気分で楽しく参加しました。

木村：もう5年近く立つんですね

濱川：これからも、AIMファインと一緒に配布が出来るといいですね

いろいろな福祉情報がほしいです、自分で集めるのは結構大変ですし、私パソコン苦手です。なんだか訳わからなくて、どんどん変なページが出てきて困っちゃって電源切ります。

木村：私もパソコン、使えないです。

佐竹：なんと言っているか・・・(笑)

佐竹：最後に自由にお話してください。

木村：今、議論されているインクルーシブ教育ですが、保護者の間でこんなことが話題になりました。「通常の小・中学校に在籍することが当然になると怖いよね」って、どうしてって聞いたら、「特別支援学校に行って教育を受けていれば障害があっても、もっと伸びるかも知れないのに親はそれが判らず、小・中学校に通学していて障害があるから出来なくてもしょうがないんだって思っていたら、怖いでしょ」って言っていました。

濱川：私もそう思う！実際に小・中学校から転学してきて、特別支援学校がこういう学校だって知らなかった、もっと早く来ていれば良かった、という保護者は多いですよ

木村：だから、保護者だけで就学を決めてはいけません、それより副籍を利用した交流がもっと発展して良くなってくればいいと思っています。

濱川：授業に入るのが無理でも、行事とかの交流だっていいし、本当に無理すると子どもが不安定な心理状況になって続かないですよ

木村：そうですね、ここに住んでいることが回りの方に分かっていけばいいことなので

濱川：恐い時代にならないといいのですが・・・

木村：この話は、皆さんいろいろな思いが飛び交って、本当に障害のある子の教育には悩むんだなって、思いました。

濱川：私の子は来年高3なので、卒業してしまうのですが、その後の子ども達が困ったことにならないといいと思います。

木村：もっと、インクルーシブの情報や国の動きとかの情報も、全肢P連の会報から読むことが出来たらいいのかしら

濱川：頑張ります。(笑)

佐竹：お話はつきませんが、お二方にはいろいろなお話しを有難うございました。

# 平成23年度 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

## 《 総 会 》

《次 第》

日 時 平成23年8月20日(土) 16:10~17:00

会 場 社会福祉センター 8階

司会 本部事務局長 佐竹京子

### 1. 会長挨拶

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会  
(東京都立墨東特別支援学校PTA会長)

濱川浩子

### 2. 来賓あいさつ

全国特別支援教育推進連盟 理事長 三浦和氏  
(株)イントコーポレーション 代表取締役

大澤尚宏氏

### 3. 新規加入PTA紹介等

佐竹京子

### 4. 議長選出

総会議長 関・甲地区 神奈川県立中原養護学校  
PTA会長 野呂真実子  
〃 中部地区 三重県立城山特別支援学校  
校長 白井一昭

### 5. 議事【総会議案の承認】

#### (1) 平成22年度事業報告

全肢P連会長 濱川浩子

#### (2) 平成22年度会計決算報告

事務局長 佐竹京子

#### (3) 平成22年度会計監査報告

監事(東京都立多摩桜の丘学園 校長)  
杉野学

#### (4) 平成23年度新役員選出

全肢P連会長 濱川浩子

代表あいさつ 全肢P連会長 濱川浩子

#### (5) 平成23年度事業計画(案)

全肢P連会長 濱川浩子

#### (6) 平成23年度会計予算(案)

事務局長 佐竹京子

#### (7) 表彰者の確認

全肢P連会長 濱川浩子

### 6. 議長解任

### 7. その他 連絡事項



## 平成22年度 事業報告

### 1. 総会及び研究大会

平成22年8月20日(金)~22日(日)

於：山形国際ホテル・ヤマコーホール

#### 主 題

「子どもたちの一人一人のニーズに応じた特別支援教育・肢体不自由教育の取り組みおよび共生社会づくりの為、PTA活動はどうあるべきか」

#### (1) 基調講演

テーマ 「特別支援教育の動向と今後の肢体不自由教育について」

講 師 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課  
特別支援教育調査官 下山直人氏

#### (2) 分科会「子どもたちをとりまくネットワーク」

第1分科会「学校」 第2分科会「地域」

第3分科会「福祉」 第4分科会「労働」

第5分科会「医療」 第6分科会「機器」

#### (3) 会員研修

テーマ 「私と肢体不自由児」

～保護者の思いに寄り添って～

九州大学大学院

人間環境学府専門職学位課程実践臨床心理学専攻長  
教授 針塚進氏

#### (4) 全体講評

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課  
特別支援教育調査官 下山直人氏

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課  
障害福祉専門官 高木憲司氏

厚生労働省職業安定局職業障害者雇用対策課地域就労  
支援室 障害者雇用専門官 吉岡治氏

全国特別支援教育推進連盟

理事長 三浦和氏

### 2. 役員会

#### (1) 第一回 平成22年8月20日(金)

於：山形国際ホテル

#### (2) 第二回 平成23年1月20日(木)

於：都立墨東特別支援学校会議室

### 3. 会報の発行

(1) 第92号 平成22年4月 20,000部

(2) 臨時会報 平成22年6月 30,000部

(3) 第93号 平成22年7月 20,000部

(4) 第94号 平成22年9月 20,000部

＜総会報告＞

(5) 第95号 平成22年10月 20,000部

(6) 第96号 平成22年12月 10,000部

＜山形大会特集号＞

(7) 第97号 平成23年1月 20,000部

#### 4. 全国心身障害児福祉財団事業 【国庫補助事業】

##### 《保護者研修会》

○本部 23年1月20日(木) 39名  
「特別支援教育におけるキャリア教育の意義と実践」  
講師 (独)国立特別支援教育総合研究所  
菊地一文氏

○中部 愛知県立ひいらぎ養護学校内  
22年9月17日(金) 36名  
「活動の幅を広げるコミュニケーション支援」  
講師 日本福祉大学 渡辺崇史氏

○東京 東京都立墨東特別支援学校  
22年11月17日(水) 83名  
① 「テクノエイドで楽しくライフステージを考えよう」  
講師 東洋大学ライフデザイン学部  
繁成剛氏  
② 「わかりやすいシーティング講座」  
講師 (株)アクセスインターナショナル  
社長 山崎泰広氏

##### 《ボランティア研修会》

○近畿 大阪府立堺支援 22年7月30日(金) 40名  
「高校生のための障がい児理解講座」  
講師 吹田市教育センター  
前主幹 森田安徳氏

○中国・四国 島根県立江津清和養護  
22年8月7日(土) 63名  
① 「ボランティアとは」  
講師 江津清和養護 元教員 八東政義氏  
② 「音の宝石箱」～ミュージック・セラピー～  
講師 音楽療法士 宮崎真理子氏

##### 《親子ふれあいキャンプ療育事業》

○北海道・東北 福島県立郡山養護  
22年8月19日(木)～20日(金) 44名  
「“御子知親”もっと知ろう子どものこと」  
講師 荒紀子氏

○関東・甲越 東京都立町田の丘学園  
22年10月16日(土)～17日(日) 34名  
「お父さんの摂食機能の理解と再調理の工夫」  
講師 町田の丘学園 主任教諭 田中颯一氏

○九州 北九州市立北九州特別支援  
22年8月3日(火)～4日(水) 40名  
① 「家庭内療育における身体の変形・拘縮の進行予防について」  
講師 北九州市立総合療育センター  
所長 佐伯満氏  
② 「家庭でできるストレッチの実技指導」  
講師 北九州市立総合療育センター  
理学療法士 阿部光司氏

##### 【社会福祉法人全国心身障害児福祉財団主催事業】

##### 《障害児・者父母団体地域指導者養成研修会》

全国5か所開催  
北海道函館市、千葉県千葉市、愛知県豊橋市、山口県防府市、愛媛県松山市

#### 5. 関係団体事業および行事等への参加

##### (1) 関係各省庁への陳情および会議などへの参加要請

- 文部科学省 特別支援教育課へ  
6月1日(火) 後援・派遣依頼、9月7日(火) 大会の御礼
- 厚生労働省 障害福祉課へ  
6月1日(火)、9月7日(火)
- 厚生労働省 雇用対策課へ  
6月1日(火)、9月7日(火)
- 中央教育審議会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」へ委員として委嘱  
第1回7月20日(火)、2回8月11日(水)、3回9月6日(月)、4回10月5日(火)、5回10月25日(月)、6回11月5日(金)、7回11月19日(金)、9回23年3月10日(木)
- 文科省とヒアリング(推進連盟理事長と同行)  
10月18日(月) 於：文科省内
- 内閣府「障害者週間の集い」へ出席

##### (2) 全国特別支援教育推進連盟理事会および行事への参加

- 理事会 5月21日(金)、7月9日(金)、10月8日(金)、23年2月4日(金)
- 常任理事会 4月30日(金)、6月23日(水)、8月28日(土)、23年3月11日(金)
- 第33回全国特別支援教育振興協議会 12月7日(火)  
於：国立オリンピック記念センター
- 障がい者制度改革推進会議(ヒアリングに参加)  
第9回4月26日(月)、第17回7月26日(月)  
意見発表者として出席
- 民主党議員と勉強会(教育関係) 推進連盟理事長と同行 23年2月24日(木)

##### (3) 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団会議等への参加

- 父母連絡会議 4月8日(木)、2回連絡会議 6月21日(月)、3回連絡会議 2月15日(火)
- 評議員会 5月19日(水)、22年3月28日(月)

##### (4) 社会福祉法人日本肢体不自由児協会

「第29回日本肢体不自由児・者の美術展」常陸宮殿下のご臨席のもと開催、表彰式および作品鑑賞  
12月2日(木) 於：東京芸術劇場  
全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会賞の授与  
(敬称略)

##### (絵画の部)

長崎県立諫早特別支援学校 高2 末永将大  
(書の部)

大阪府高石市立高石中学校 3年 吉見成生

- 運営委員会 4月22日(木)、9月30日(木)
- 審査会 10月14日(木)
- 手足の不自由な子どもたち「はげみ」編集会議  
5月18日(火)、7月13日(火)、9月3日(金)、11月15日(土)、23年1月22日(土)

##### (5) 日本肢体不自由教育研究運営委員会および大会への参加

- 総会および運営委員会 5月15日(土)、運営会議

## 平成 23 年度 全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会顧問名簿

4月17日(土)、6月19日(土)、7月10日(土)、9月11日(土)、10月16日(土)、11月20日(土)、23年1月15日(土)、2月19日(土)

●第34回研究大会 8月9日(月)～10日(火)

於：タワーホール船堀(東京都江戸川区)

●特別支援教育セミナー 12月17日 於：青山学院内

(6) 各地区主催の肢体不自由特別支援学校P T A・校長会  
合同研究協議会等への参加

●都肢P連総会へ 5月20日(木)

歓送迎会へ 5月29日(土)

●関肢P連理事会へ

5月12日(水)、23年1月12日(水)

●関肢P連および校長会合同協議会(山梨大会)へ

7月25日(土)～26日(日)

### 6. 関係友好団体への後援等

- 第34回日本肢体不自由教育研究大会
- 平成22年度「第29回肢体不自由児・者の美術展」日本  
肢体不自由児協会
- 平成22年度(第43回)東北・北海道地区特別支援学校肢  
体不自由教育校長・P T A会長合同研究協議会  
—秋田大会—
- 第43回全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国大会  
第27回全道肢体不自由児者福祉大会札幌大会 に伴う
- 第33回てんかん基礎講座 協賛
- 第37回(社)日本てんかん協会 第37回全国大会(熊本  
大会) 協賛
- 平成22年度第46回関東・甲越地区肢体不自由特別支  
援学校P T A会長総会及びP T A・校長会合同研究協議会  
(山梨大会)
- 第48回中部地区肢体不自由教育研究大会(富山大会)
- 全国訪問教育研究会第23回全国大会
- シンポジウム「国際障害者権利条約批准後の教育の在り  
方について」広島大学

### 7. 表彰者の確認

全国肢体不自由特別支援学校P T A連合会「宮崎大会」  
実行委員会

主管校(宮崎県立清武せいりゅう支援学校P T A会長)

東 美 幸 様

氏 名	備 考
西端 工	昭和56年度～昭和57年度 会 長(東京都立城南養護学校)
高本和昌	昭和63年度～平成2年度 会 長(東京都立城南養護学校)
永島弘子	平成3年度 会 長(東京都立北養護学校)
谷口 篤	平成8年度～平成12年度 会 長(東京都立北養護学校)
佐竹京子	平成13年度 会 長(国立筑波大学附属桐が丘養護学校)
村上節子	平成14年度～平成15年度 会 長(東京都立城北養護学校)
木村知鶴	平成16年度～平成17年度 会 長(東京都立小平養護学校)
江本 緑	平成18年度～平成19年度 会 長(東京都立光明特別支援学校)
中島秀夫	昭和54年度～昭和58年度 全肢長会長(東京都立小平養護学校校長)
三浦 和	昭和61年度～平成元年度 全肢長会長(東京都立光明養護学校校長)
青柳勝久	平成4年度～平成5年度 全肢長会長(東京都立北養護学校校長)
鈴木 峻	平成6年度～平成8年度 全肢長会長(東京都立光明養護学校校長)
林 友三	平成9年度～平成11年度 全肢長会長(東京都立北養護学校校長)
今里 勉	平成12年度 全肢長会長(東京都立光明養護学校校長)
飯野順子	平成13年度 全肢長会長(東京都立村山養護学校校長)
能瀬廉英	平成14年度 全肢長会長(東京都立光明養護学校校長)
伊東光雄	平成15年度～平成16年度 全肢長会長(東京都立光明養護学校校長)
池田敬史	平成17年度～平成20年度 全肢長会長(東京都立あきる野学園校長)
土井富夫	平成21年度～平成22年度 全肢長会長(東京都立城北特別支援学校校長)
福地周一	福岡市立今津養護学校元P T A会長

埜野 諭	昭和50年度～53年度 平成20年4月27日ご逝去 会 長(東京都立光明養護学校)
石川昌次	昭和59年度～60年度 平成19年9月22日ご逝去 全肢長会長(東京都立光明養護学校校長)
早瀬俊夫	昭和47年度 平成19年6月23日ご逝去 全肢長会長(大阪府立堺養護学校校長)





# 平成 22 年度 会計報告

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

平成 23 年 3 月 31 日 (単位:円)

## 〈収 入〉

項 目	22 年度予算	22 年度決算	摘 要
前 年 度 繰 越 金	1,901,856	1,901,856	
会 費	7,288,000	7,288,000	203 校分担金 (400 円× 18,220 人児童生徒数)
J K A 補 助 金	859,000	859,000	(財) J K A (大会特集号の補助)
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,201,700	別紙内訳
助 成 事 業 費	0	0	実施予定なし
寄 付 金	0	0	
雑 収 入	600,000	914,356	保険事務手数料、オムツ手数料、利子等
合 計	11,868,856	12,164,912	

## 〈支 出〉

項 目	22 年度予算	22 年度決算	摘 要
会 議 費	700,000	474,265	大会 30 万、総会、役員会、その他会議
研 修 費	1,100,000	809,179	大会 60 万、大会参加費等、関係団体研修大会参加費等
会 報 費	2,000,000	1,821,750	92・93・94(総会)・95・96(大会)・97 号
分 担 金	139,000	139,000	推進連盟、日肢協(美術展)、日肢研
渉 外 費	100,000	33,425	他団体祝い金、周年行事出席、慶弔費等
地 区 助 成 費	480,000	480,000	80,000 円× 6 ブロック
交 通 費	400,000	188,380	研修大会等交通費、一般交通費
通 信 費	900,000	993,937	電話、郵券、会報発送費、振込み料等
事 務 局 運 営 費	3,200,000	2,611,022	事務所使用料、事務作業費等 <かたつむり>派遣支払い
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,201,700	別紙内訳
助 成 事 業 費	0	0	実施予定なし
事 務 用 品 費	330,000	249,098	封筒、消耗品、事務関係全般
備 品 費	500,000	72,640	パソコン関連(メンテナンス・修理含む)・他
雑 費	50,000	14,280	貸し金庫使用料・他
予 備 費	749,856	0	
特 別 会 計	0	1,000,000	口座へ
次 年 度 繰 越 金	0	2,076,236	
合 計	11,868,856	12,164,912	

## 平成22年度 国庫補助事業内訳

項 目	22 年度予算	22 年度決算	実施ブロック
保 護 者 研 修 会	30,000	30,000	本部
	30,000	28,500	中部 (愛知県立ひいらぎ養護)
	30,000	30,000	東京 (東京都立墨東特別支援)
ボ ラ ン テ ィ ア 研 修 会	40,000	38,500	近畿 (大阪府立堺支援)
	40,000	37,000	中国・四国 (島根県立江津清和養護)
親 子 ふ れ あ い キ ャ ン プ 療 育 事 業	350,000	346,900	北海道・東北(福島県立郡山養護)
	350,000	345,400	関東・甲越 (東京都立町田の丘学園)
	350,000	345,400	九州 (北九州市立北九州支援)
合 計	1,220,000	1,201,700	

※決算の差額は謝金等の税金分を引いたものです。

## 会計決算報告

上記の通り平成 22 年度の収支決算を報告いたします。  
平成 23 年 3 月 31 日

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

会 長 濱 川 浩 子 ㊟  
事務局 長 佐 竹 京 子 ㊟

## 会計監査報告

監査を実施した結果、適正に処理されていることを認めます。  
平成 23 年 5 月 20 日

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

監 事 杉 野 学 ㊟  
監 事 坂 ますみ ㊟

# 平成 23 年度 全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会役員名簿

役職名	氏 名	所 属	ブロック	備 考
会 長	濱 川 浩 子	東京都立墨東特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
副 会 長	三 室 秀 雄	東京都立光明特別支援学校 校長	関 東・甲 越	全肢長会長
〃	石 田 み き	東京都立永福学園(肢体不自由教育部門) P T A 会長	関 東・甲 越	都肢 P 連会長
〃	蒲 生 雅 之	山形県立ゆきわり養護学校 P T A 会長	北海道・東北	ブロック長
〃	古 屋 ユ カ	茨城県立つくば養護学校 P T A 会長	関 東・甲 越	ブロック長
〃	前 坂 陽 子	富山県立富山総合支援学校 P T A 会長	中 部	ブロック長
〃	森 寺 美 由 紀	川西市立川西養護学校 P T A 会長	近 畿	ブロック長
〃	坂 東 弘 美	鳥取県立皆生養護学校 P T A 会長	中国・四国	ブロック長
〃	高 橋 由 紀 子	長崎県立諫早特別支援学校 P T A 会長	九 州	ブロック長
理 事	濱 川 浩 子	東京都立墨東特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	三 室 秀 雄	東京都立光明特別支援学校 校長	関 東・甲 越	
〃	石 田 み き	東京都立永福学園 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	蒲 生 雅 之	山形県立ゆきわり養護学校 P T A 会長	北海道・東北	
〃	齊 藤 隆	山形県立ゆきわり養護学校 校長	北海道・東北	
〃	古 屋 ユ カ	茨城県立つくば養護学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	鈴 木 功	茨城県立つくば養護学校 校長	関 東・甲 越	
〃	伊豆 味 る み 子	神奈川県立麻生養護学校 P T A 会長	関 東・甲 越	神奈川大会実行委員長
〃	成 田 裕 子	神奈川県立麻生養護学校 校長	関 東・甲 越	神奈川大会主管校長
〃	前 坂 陽 子	富山県立富山総合支援学校 P T A 会長	中 部	
〃	片 岡 待 子	富山県立富山総合支援学校 校長	中 部	
〃	本 藤 由 利 子	長野県稲荷山養護学校 P T A 会長	中 部	次期大会実行委員長
〃	水 内 秀 雄	長野県稲荷山養護学校 校長	中 部	次期大会主管校長
〃	森 寺 美 由 紀	川西市立川西養護学校 P T A 会長	近 畿	
〃	橋 詰 和 也	伊丹市立伊丹特別支援学校 校長	近 畿	
〃	坂 東 弘 美	鳥取県立皆生養護学校 P T A 会長	中国・四国	
〃	武 智 一 郎	愛媛県立しげのぶ特別支援学校 校長	中国・四国	
〃	高 橋 由 紀 子	長崎県立諫早特別支援学校 P T A 会長	九 州	
〃	榊 忠 幸	長崎県立諫早特別支援学校 校長	九 州	
評 議 員	中 島 早 苗	北海道拓北養護学校 P T A 会長	北海道・東北	
〃	高 橋 由 紀 子	北海道拓北養護学校 校長	北海道・東北	
〃	吉 川 俊 継	群馬県立二葉高等養護学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	伊 藤 甲 之 介	神奈川県立三ツ境養護学校 校長	関 東・甲 越	
〃	村 椿 義 幸	富山県立高志支援学校 P T A 会長	中 部	
〃	菅 沼 貴 幸	静岡県立静岡南部特別支援学校 校長	中 部	
〃	鈴 木 隆 平	和歌山県立南紀支援学校 P T A 会長	近 畿	
〃	林 一 幸	川西市立川西養護学校 校長	近 畿	
〃	高 崎 英 樹	広島県立広島特別支援学校 P T A 会長	中国・四国	
〃	室 積 幸 生	広島県立広島特別支援学校 校長	中国・四国	
〃	奥 那 嶺 裕 子	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 P T A 会長	九 州	
〃	兼 本 タ カ 子	沖縄県立泡瀬特別支援学校 校長	九 州	
監 事	坂 ま す み	東京都立光明特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	都肢 P 連副会長
〃	引 間 宗 人	東京都立北特別支援学校 校長	関 東・甲 越	
事務局 長	佐 竹 京 子	全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会事務局内		

# 平成 23 年度事業計画

## 1. 総会及び研究大会

平成 23 年 8 月 20 日(土)～22 日(月)

於：パンパシフィック横浜ベイホテル東急

主 題 「子どもたちの一人一人のニーズに応じた特別支援教育・肢体不自由教育の取り組みおよび共生社会づくりの為、P T A 活動はどうあるべきか」

- (1) 基調講演
- (2) 分科会「子どもたちをとりまくネットワーク」  
第 1 分科会「学校」 第 2 分科会「地域」  
第 3 分科会「福祉」 第 4 分科会「労働」  
第 5 分科会「医療」 第 6 分科会「機器」
- (3) 会員研修
- (4) 全体講評

## 2. 役員会

- (1) 第一回 平成 23 年 8 月 20 日(土)  
於：横浜市社会福祉センター会議室
- (2) 第二回 平成 24 年 1 月末  
於：都立墨東特別支援学校内(予定)

## 3. 会報の発行

- (1) 第 98 号 平成 23 年 4 月 20,000 部
- (2) 第 99 号 平成 23 年 7 月 20,000 部
- (3) 第 100 号 平成 23 年 9 月 20,000 部 <総会報告>
- (4) 第 101 号 平成 23 年 10 月 20,000 部
- (5) 第 102 号 平成 23 年 11 月 9,000 部  
<神奈川大会特集号>
- (6) 第 103 号 平成 24 年 1 月 20,000 部

## 4. 全国心身障害児福祉財団事業

【社会福祉法人全国心身障害児福祉財団主催事業】  
《障害児・者父母団体地域指導者養成研修会》  
全国 5ヶ所の予定

### 【国庫補助事業】

### 全国心身障害児福祉財団事業実施地区割り当て

年度	国 庫 補 助 事 業		
	保護者研修会 (3 回)	ボランティア 研修会 (2 回)	親子ふれあいキャンプ 療育事業 (3 回)
22	本部 中部 東京	近畿 中国・四国	北海道・東北 関東・甲越 九州
23	本部 北海道・東北 東京	関東・甲越 中部	中部 近畿 中国・四国
24	本部 中国・四国 東京	北海道・東北 九州	北海道・東北 関東・甲越 九州

25	本部 九州 東京	近畿 中国・四国	中部 近畿 中国・四国
26	本部 近畿 東京	関東・甲越 中部	北海道・東北 関東・甲越 九州

\*当該年度の事業のブロック別分担は、定められた順番(上図参照)で進められており、ブロック毎に担当の学校を 4 月中旬頃に決定し、各ブロック事務局から本部事務局まで連絡をください。

なお、財団へ提出する書類が 5 月初めです、内定の段階でも実施校の連絡をお願いします。

## 5. 関係団体事業および行事への参加

- (1) 関係各省庁への陳情および会議などへの参加要請
- (2) 全国特別支援教育推進連盟常任理事会・理事会および行事への参加
- (3) 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団父母連絡会議等への参加
- (4) 社会福祉法人日本肢体不自由児協会  
「第 30 回日本肢体不自由児・者の美術展」開催への協力  
●運営委員会、審査会への参加ならびに全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会賞の授与  
● 12 月頃、東京芸術劇場で常陸宮殿下のご臨席のもと表彰式および作品鑑賞
- (5) 日本肢体不自由教育研究運営委員会および大会への参加
- (6) その他  
●各地区主催の肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会・校長会合同研究協議会への参加  
●関係団体の記念行事等の参加

## 6. 関係友好団体への後援等

## 7. 表彰者の確認、顧問の推薦

## 8. 《全国大会 開催ブロックの予定一覧》

22 年度	(北海道・東北) 山形大会 主管校：山形県立ゆきわり養護学校	(北海道・東北) ↓ (関東・甲越)
23	(関東・甲越) 神奈川大会 主管校：神奈川県立麻生養護学校	↓ (中部)
24	(中部) 長野大会 主管校：長野県稲荷山養護学校	↓ (近畿)
25	(近畿) 和歌山大会 主管校：和歌山県立南紀支援学校	↓ (中国・四国)
26	(中国・四国)	↓ (九州)
27	(九州)	

# 平成 23 年度 会計予算

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

## 〈収 入〉

(単位：円)

項 目	22 年度予算	23 年度予算	摘 要
前 年 度 繰 越 金	1,901,856	2,076,236	
会 費	7,288,000	7,254,400	204 校分担金(400 円× 18,136 人児童生徒数)
J K A 補 助 金	859,000	774,000	(財) J K A (大会特集号の補助)
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,220,000	別紙内訳
助 成 事 業	0	0	実施予定なし
寄 付 金	0	0	
雑 収 入	600,000	600,000	保険手数料、オムツ手数料、利子等
合 計	11,868,856	11,924,636	

## 〈支 出〉

項 目	22 年度予算	23 年度予算	摘 要
会 議 費	700,000	800,000	大会 30 万、総会、役員会、その他会議
研 修 費	1,100,000	1,100,000	大会 60 万、大会参加費等、関係団体研修大会参加費等
会 報 費	2,000,000	2,000,000	98・99・100(総会)・101・102(大会)・103 号
分 担 金	139,000	139,000	推進連盟、日肢協美術展、日肢研
渉 外 費	100,000	100,000	他団体祝い金、周年行事出席、香典等
地 区 助 成 費	480,000	480,000	80,000 円× 6 ブロック
交 通 費	400,000	400,000	研修大会等交通費、一般交通費
通 信 費	900,000	1,000,000	電話、郵券、会報発送費、振込み料等
事 務 局 運 営 費	3,200,000	3,200,000	事務室使用料、事務作業費等 <かたつむり>派遣支払い
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,220,000	別紙内訳
助 成 事 業	0	0	実施予定なし
事 務 用 品 費	330,000	330,000	封筒、消耗品、事務関係全般・他
備 品 費	500,000	500,000	パソコン関連(メンテナンス・修理含む)・他
雑 費	50,000	50,000	貸し金庫使用料・他
予 備 費	749,856	605,636	
特 別 会 計	0	0	
合 計	11,868,856	11,924,636	

## 平成23年度 国庫補助事業内訳

項 目	22 年度予算	23 年度予算	実施予定ブロック
保 護 者 研 修 会	30,000	30,000	本部
	30,000	30,000	北海道・東北
	30,000	30,000	東京
ボ ラ ン テ ィ ア 研 修 会	40,000	40,000	関東・甲越
	40,000	40,000	中部
親 子 ふ れ あ い キ ャ ン プ 療 育 事 業	350,000	350,000	中部
	350,000	350,000	近畿
	350,000	350,000	中国・四国
合 計	1,220,000	1,220,000	

## 《神奈川大会宣言文》を国へ提出しました。

平成 23 年 9 月 15 日(木)は残暑のきびしい暑い日でしたが、濱川浩子全肢P連会長と三室秀雄全肢長会長、佐竹京子全肢P連事務局長の三名で、文部科学省、特別支援教育課を訪問し、千原由幸課長様へ神奈川大会のご出席のお礼と大会宣言文をお渡しいたしました。

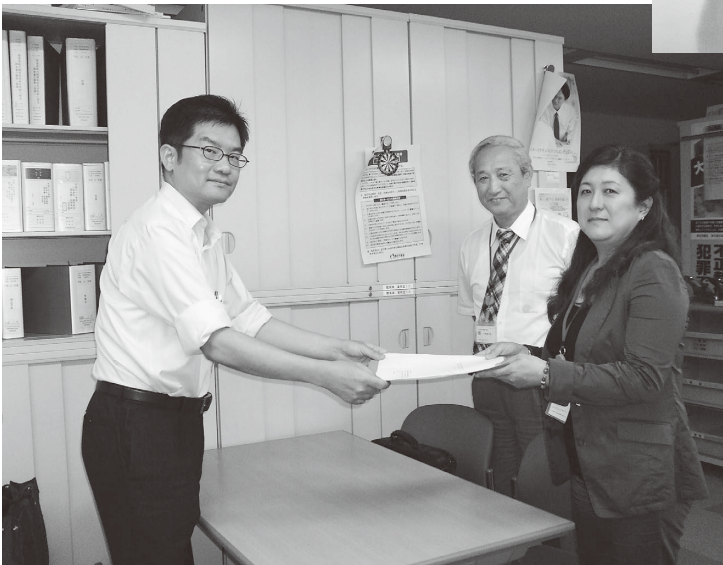
同日、厚生労働省を訪問し、障害福祉課の土生栄二課長様と障害者雇用対策課の山田雅彦課長様へも大会へのご出席のお礼ならびに大会宣言文をお渡しすることができました。  
《事務局長 佐竹京子》



特別支援教育課



障害福祉課



障害者雇用対策課

# 大会宣言文

平成19年4月、文部科学省初等中等教育局長、通知「特別支援教育の推進について(19文科初第125号)」が示され、これまで積み上げてきた特殊教育から特別支援教育の理念を基にした教育へと転換が図られました。これにより、全国の特別支援学校等において個別の支援計画が作成されました。

なお、我が国の障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備を検討する為、平成21年12月に「障がい者制度改革推進会議」が設置され、平成22年12月には第二次意見が出されました。

また、平成22年7月12日、中央教育審議会初等中等教育分科会において「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」が設置されました。

全肢P連も文部科学省からの委嘱により、委員として代表者が参画し、活発な議論を継続しているところです。同委員会は平成22年12月、審議の中間的まとめを論点整理として示しました。

論点整理では、「インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、その時点で教育的ニーズに最も的確にこたえる指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。」としました。

このような経緯を踏まえ、本年8月5日「障害者基本法の一部を改正する法律の公布・施行」の通知がありました。

特別支援学校は、これまで以上に子どもたちの個々のニーズに応じた教育の充実に取り組み、交流及び共同学習を行い、障害のある子どもたちの地域生活を支援していくことが望まれます。

全肢P連は、全国に於ける特別支援教育(肢体不自由教育)が、より発展を遂げることを活動の理念に、障害のある人もない人も互いに支え合う共生・協働の社会の実現に向け、これまで以上の理解啓発・充実を進めるPTA活動を推進して参ります。

本年、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会ならびに全国特別支援学校肢体不自由教育校長会は8月20日・21日・22日の3日間、神奈川県に於いて、PTA・校長会合同研究大会『神奈川大会』を開催し、「子どもたち一人一人のニーズに応じた特別支援教育・肢体不自由教育の取り組みおよび共生社会づくりの為、PTA活動はどうあるべきか」を主題に研究協議を重ねました。

本研究大会において、共通理解に至った以下の重点事項を挙げ、関係するすべての機関が協力し、子どもたちの幸福な未来を実現していくことを、ここに宣言いたします。

- 乳幼児期から生涯に渡り、教育・福祉・医療・労働等の各関係機関が協力し、幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた「個別の支援計画」を策定し、計画の実施、評価を通して、障害の多様化、重度・重複化に対応する特別支援教育の充実を図っていきます。
- 障害のある子ども達と障害のない子ども達が共に学ぶ、居住地での小・中学校との交流及び共同学習を推進し、地域生活の基盤づくりを進めていきます。
- 医療的ケア実施体制整備事業(厚労省：平成16年10月通知)を踏まえた組織の再編整備と看護師配置(非常勤看護師含)の充実と共に、幼児児童生徒の安全・衛生面を最大限に守りながら、子ども達の教育を支えるため、医療的ケアの管理と質の向上を進めていきます。
- 障害のある幼児児童生徒が等しく教育を受ける権利を確立するために、義務教育国庫負担制度及び特別支援教育就学奨励費制度の堅持・充実とその財源の確保を求めていきます。
- 特別支援学校は、その専門性を活かし、近隣の幼稚園や小・中・高等学校への相談支援や巡回指導などのセンター的機能の充実を図っていきます。
- 特別支援学校としての教育を一層充実するため、特別支援学校等の教職員定数改善計画の実施を目指します。  
また、障害に応じた知識・技能・経験等の自立活動の専門性を備えた、教員定数外のOT・PT・ST等の外部専門職の配置や導入を進め、校内の担任等と外部人材が互いに連携し、特別支援教育の向上を図っていきます。
- 障害のある子ども達が利用できる、児童サービス、放課後サービス等、肢体不自由児施設(通園施設)、重症心身障害児者通園施設等の整備を進め、医療的ケアの必要な障害児・者も地域で安心して生活ができるよう、事業を拡充していきます。
- 介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員等が、一定の条件の下でたんの吸引等の行為が実施できるようになったこと(平成23年6月、社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正)を踏まえ、障害児・者の地域生活を支える医療的ケアを充実させていきます。
- 卒業後の自立や社会参加に向けて、市区町村に設置された就労支援センターを活用すると共に、労働関係各機関等と連携を図り、生徒の就業を促進していきます。

- ノーマライゼーションの理念に沿って、社会生活への支援を進める為に、自立支援協議会を中心に相談支援事業を拡充し、就業や日中活動へ通う障害者のグループホーム・ケアホーム等の生活の場を確保します。
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所における肢体不自由教育の専門的な研修等の積極的な推進と、特別支援教育コーディネーターの資質の向上、養成、特別支援教育(肢体不自由教育)に携わる教員の専門性・資質の向上を図っていきます。
- 情報機器の整備、AAC、その関連機器の開発および、肢体不自由児・者のためのコミュニケーション支援・就労支援など、機器を活用したIT指導の充実を図っていきます。
- 公共・民間の施設・交通機関のバリアフリー、ユニバーサルデザインを活用した建物や設備の具体的な施策を促進していきます。

平成 23 年 8 月 22 日

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会  
全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

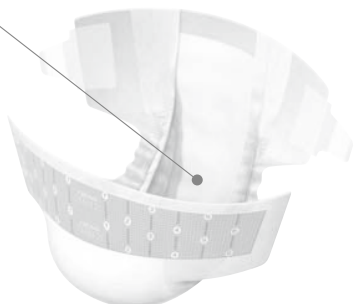
## GOO.N スーパーBIGパンツ

子供用と大人用の中間サイズ

エリエール

テープタイプ 28枚

薄型吸収体が尿をしっかり吸収。逆戻り・さらっと感向上!



NEW パンツタイプ 14枚

好評価の下着らしいシンプルなデザイン



面でフィットする足回りギャザーでもれにくさ改善。

適応範囲の目安

ウエストまわり

50~70cm

体 重

15~35kg

吸 収 量

おしっこ3~4回分

(※1回あたりを120ccとした時)

サンプル / ご購入をご希望の方へ

●インターネットで「グーン」と検索!または、<http://www.babygoo-n.com/>へアクセス。

ご購入「インターネット宅配サービス」ページからお申し込み

※ご購入は、お電話でも受け付けています。☎0120-888-571(株セイノー商事) 受付時間:平日9:30~17:30  
電話でのご注文の際には、「全国肢体不自由特別支援学校」である旨を伝えてください。

## 〈新規加入校紹介〉

### 東京都立青峰学園

#### 地域に根ざし地域とともに

本校は平成十六年十一月に策定されました、東京都特別支援教育推進計画(第一次)に基づき、平成二十一年四月に開校しました。本年で三年目を迎えました。肢体不自由教育の小・中・高等部は初年度から三学部同時に開校しましたが、高等部就業技術科は、年次進行でしたので、本年度で三学年が揃いました。

さて、本校PTAは、平成二十三年四月に定期総会を開会して、「東京都立青峰学園PTA」の設立が承認されました。

PTAの目的を達成するために、保護者、学校、そして地域と西多摩地域の特別支援学校をはじめ、都内の特別支援学校からご指導を賜り、子ども達の幸せを願い、会員相互が共に切磋琢磨して、目的が達成できるように努めて参りたいと考えています。

また、本校の児童・生徒は、肢体不自由・知的障害と障害種が違います。会員相互がお互いの障害を理解しあい、明るく、元気なPTA組織が築かれることを期待しています。

本校は、通学区域が青梅市、奥多摩町に在住する肢体不自由の児童・生徒が在籍する、小・中・高等部普通科と、通学区域は設けず全都から知的障害の軽い生徒を、一学年四十名定員で募集する、高等部就業技術科を併せて設置する新しいタイプの特別支援学校です。

肢体不自由教育は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、学校介護職員を導入した新しい指導体制で、一人一人の障害による学習上または生活上の困難等に応じた専門的な教育を推進しています。

また、高等部就業技術科は、基礎・基本を学ぶ教科学習の

ほか、企業の専門家を市民講師として招聘し、専門的な職業教育と産業現場での実習に取り組み、「生徒全員の企業就労」を目指した教育を推進しています。

高等部就業技術科は、「生徒全員の就労」を目指していません。卒業後に「働き続けることのできる力」を育成するために、学校生活の短期目標を立て、安定した学校生活が出来るよう、生活指導にも力を入れて取り組んでいます。

肢体不自由教育の小・中・高等部は、主体的に自立と社会参加に取り組み、生涯にわたって心豊かに生きていけるよう、情報機器を活用した教材・教具の開発と工夫をしながらコミュニケーション指導に重点をおき、日々の授業の充実を図っています。

開校三年目の本校ですが、日々の授業と、個に応じた指導の充実を図り、地域に根ざし地域とともに歩む、開かれた学校を目指して参ります。今後ともご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。(校長 馬籠裕二)

＝編＝集＝後＝記＝

当会の会報は、(株)イント・コーポレーションの福祉情報冊子「アイムファイン」と合併しています。

その為、年間の発行回数も増え、会計予算から印刷費の削減が実現できました。今回の会報100号は加盟校にお渡しする総会報告の為、従来通りの様式でお届けしています。

総会は神奈川県において滞りなく開催されました。

全国各校のPTA会長さんや校長先生方には、総会の開催ならびに運営に大変ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

また、この号は100号記念になることから全肢P連濱川浩子会長と木村知鶴元会長のミニ対談を掲載いたしました。是非、ご一読ください。

〈事務局長 佐竹京子〉

### 小さ過ぎず、大き過ぎず、これまでにないサイズ

**リブドゥ** ベビー用より大きく 大人用より小さいサイズ

体面の目安 20kg～45kg  
※体重はあくまで目安とさせていただきます。  
ヒップサイズ 50cm～80cm

簡単テープ止めタイプ 横モレ防止

前後のウエストギャザーが 背モレ・腹モレを防止

股上がピッタリ

ベビー用と大人用の一番の差は「股上」! これまで「サイズが合わない」と思われていた方にピッタリのサイズです。

2つのギャザーが 流れ・伝いモレを防止

消臭ポリマー配合 臭いにも安心

※製品イメージ

**リブドゥ** はくパンツ ジュニア

ふんわりやわらか お肌にやさしい

ウエストサイズ 45cm～60cm

- ゆったりソフトギャザー
- 股間スッキリ構造
- 横モレ防止ギャザー
- 全面通気性シート

消臭ポリマー配合 臭いにも安心

※製品イメージ

サンプル請求/宅配購入を、ご希望の場合は まごころサポート ☎0120-062-055

●簡単テープ止めタイプ横モレ防止SS1袋(34枚入)…2,980円 ●はくパンツジュニア1袋(24枚入)…1,980円 ※いずれも消費税込み



株式会社リブドゥコーポレーション

〒541-0048 大阪市中央区瓦町1丁目6番10号  
www.livedo.jp